

平成 27 年度長野県松本あさひ学園福祉サービス評価委員会報告

平成 28 年 3 月 9 日（水）

於：松本あさひ学園 心理治療棟

ここには、学園の事業内容や支援に対する各委員からのご意見を掲載します。

○昨年、学園内で、児童間での言い争いに介入した職員が、一方の児童の頬を平手で叩くという事態が起きました。この説明を受けて、各委員からの質問、意見について。

【竹村委員】

・このような事態は起こりうることである。しかし、あってはいけないことである。この職員の方はどうなっているか。

(学園)

・担当は、外しています。被措置児童虐待事案に該当すると県から話はありませんでしたが、県児童福祉審議会処遇審査部会に諮って決定するとのことであり、その結果をもって対応する予定です。

(所長)

【竹村委員】

・今回のことは突発的に起こったものと理解できるが、仮に懲戒になった場合、当該職員が引き続き福祉の仕事を担当して行けるような配慮や指導が必要かと思う。

【中沢委員】

・松本圏域でも、裁判中の案件がある。今回のケースは、加害職員が自らから言えてことは良かった。学園全体で再発防止に向け取り組んでおり、やるべきことはやっていると感じた。

・その場その場の個人の判断が求められる。子どもとどう接するかを職員同士で話し合い、互いにチェックする機会を大切にしてほしい。

・感想として、いけないことをした時に大人としてどう立ち振る舞うのか、子どもの見本になってほしい。

【滝澤委員】

・虐待発生時に具体的にどんな対応をしていけばベストであっか。複数の職員がいれば違ったのではないか。

(学園)

・男子ユニットでは、職員 3 名で支援していましたが、それぞれがそれぞれの児童の対応をしており、離れていました。早期に介入することもポイントですが、そこまで事態がエスカレートしていることに気づけませんでした。(次長)

・職員体制の課題があったと考えています。当日は男性 1 名、女性 2 名の配置。できれば男性 2

名配置の体制が好ましいと思います。それ以降はできるだけそうした配置になるように配慮しています。(係長)

・瞬間的に対応する力が求められます。入所している児童の中には挑発的行動を繰り返したり、行動の激しい子もいて、スキルとしてどうすべきか、もっと研修で自分たちのキャパシティを豊かにしておく必要があると考えています。その場で決着させないといけない場合もある一方、切り離れた場面で「何があったのか」を話す環境をつくることも必要と思います。(所長)

【深井委員】

・職員が手を出したのは残念。私も月1回お手玉で参加しているが、活動に乗れない子がいる中でまとめることの大変さを感じている。

自分のしたことを悪かったと思える指導も必要ではないか。そういう指導はどうしているか。

(学園)

・常識的にはその通りですが、ここはいかんともしがたいこともあります。ここは、色んなことがうまくいかない、教えが通じない子どもが多く入所している施設です。職員はがむしゃらに頑張ってきましたが、今回の一件で、まだまだ未熟な面があることが分かりました。ただ、職員個人の問題ではなく、全体の問題として捉えられたのが唯一の幸いかと感じています。

ここでは大人からの注意を聞くことが難しい子どもが大半です。大人の言うことは、いやなこと、叱られることという認識です。叱られ続けてきた子どもたちと信頼関係を築くのが最初の支援です。そこができたうえで、自分のやったことを振り返り、どうすればよかったかを一緒に考えるのが基本スタイルです。子どもからの挑発や暴言に対して、いかに冷静に受け止めて、少しでも良い支援がどうしたらできるか常に研鑽していかなければなりません。

暴言、暴力は決して許されないことを、一緒に振り返りながら指導していますが、お手本である職員がしてしまったことで、子どもに根深い傷を残したと思っており、これからも丁寧に支援していきたいと思います。(医師)

【我山委員】

・措置権者として、大変な児童を支援していることは理解している。再発防止策に関する改善計画の提出を求められると思うが、どういうスケジュールになっているか。また、児童虐待の研修はどうするか。テキストの活用や見直しについてはどう考えているが教えてほしい。

(学園)

・今までの研修やセルフチェックは年1回程度で、実行的になっていなかった面があります。来年度の重点目標に掲げ取り組んでいきますが、具体的には、職員研修のほかセルフチェックも含めて定期的、計画的に実施していくことと考えています。マニュアルも作ったからよしではなく、実行していくことが重要と考えています。(所長)

・3月17日に県児童福祉審議会処遇審査部会があります。それを受けて改善計画を提出するものと考えておりました。改善計画としてはまとめていないため所内で検討します。(次長)

【我山委員】

- ・ 審議会からの指示がある前に今後の対策をタイムスケジュール化して作成しておいた方がいいと思う。子どもたちへの影響は絶対に出てくるので、ユニット内の面接なども有効だろうし、第三者の意見を含めて、いずれにしても求められる部分である。
- ・ こういう事例があつて職員集団として捉えてもらったことはありがたいことである。

(学園)

より具体的な計画を立てて取り組んでまいります。(所長)

【斎藤委員】

- ・ 同じ子どもを見ているので、分校としても同じように考えていきたい。ポイントとしては子どもへの関わり方のスタンスはどうか、スキルはそうなのかを共有していきたい。情短としてのスタンスが一般化されていないのも問題であり、やれることをやっていく。私たちだけでやりきれない部分を外にアプローチしていくことも大事だと思う。虐待がいけないことは周知されているが、じゃあどうケアするかが施策化されていないことがあると考える。
- ・ 県議会の中であさひが話題になったと聞いている。具体的な施策を作る中で、私たちを支える環境ができるといいなと思う。

○ボランティア活動について

【滝澤委員】

- ・ しめ縄、餅つきでボランティアの活動に対し、児童の反応はどうか。
- ・ どうしても指示的な教え方になってしまう人もおり、それがいいのかそうか教えてほしい。

(学園)

- ・ 飛びつく子もいれば、興味のない子もおり色々な子どもがいます。私たちから提供するの難しいため、非常に良い機会であり、ありがたく感じています。
- ・ 正直なことを言えば、ハラハラする場面もありましたが、どの子も基本的には地域に帰っていくという見通しでいます。社会のみんながみんな特性に配慮されているわけではなく、そうした中では、こういう機会はとてもありがたいことです。気を付けてほしいことはお伝えしていくつもりです。(係長)

【滝澤委員】

- ・ ぜひお願いしたい。こちら側ではわからないので、講師の先生方にも伝えていきたい。

(学園)

- ・ 細かな配慮をいただき感謝します。子どもの心の中に土足で入っていくようなことを心配されていると思いますが、そのような時は遠慮なく申し上げたい。
- ・ 施設の中で通用することだけでなく、いろんな人やいろんなことがある中で、どう生きていくかが大事と考えています。